

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (ヴォーカリストコース)	
専攻実技 4	
第4回	オーディションのための対策2
第5回	モニターについて (ライブ、レコーディング)
第6回	ハモリのトレーニング
第7回	ハモリのトレーニング
第8回	ライブ、レコーディングでのルール
第9回	リズムトレーニング、スキップ
第10回	さまざまなビートで歌う
第11回	フェイク、アドリブの方法2
第12回	ステージング、歩き方
第13回	ステージング、アクション、目線
第14回	ステージング、MC
第15回	全体まとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (サウンドクリエイターコース)											
専攻実技 4											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	杉本、藤崎			実務経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
クオリティの高い楽曲をスピーディーに制作できるスキルをさらに磨き上げることを目的とする。各自が決めたテーマへの精度の高い実現力を身につけるとともに、より深い知識、技術力、柔軟な対応力を身につけることを目標とする。講義以外に各自DAWで制作し、定期的な授業内発表により、締切に向けた作業工程の組み立てを自主的に考え「世の中に向け発表する」とはどういうことかを体感できる。											
到達目標											
自分の音楽を発表、発信するためにはただ単に作曲をするだけでなく、発声の仕組み、伴奏の理解、ピアノ演奏法、PA機器の操作等、必要とされる知識、技術は多岐にわたる。これらのスキルを身につけ、また学内の他科とのコラボレーションも念頭に入れ譜面の書き方、特にメロディ譜の書き方について修得する。											
授業方法											
学生各自がDAWを使用し、各自のイメージを具体化したテーマを持った楽曲制作をおこなう。講師により楽曲のクオリティを上げるべく指導を受けることができる。適宜、音楽知識、制作技術、その他弱点補強の講義もおこなう。楽曲制作、歌や楽器の録音、エディットやミックス作業ののち、定期的な授業内発表をおこなう。各学生の個性、音楽経験を通し、困難に直面した場合でも、作業をしながら問題解決するスキルを身につけていく。											
成績評価方法											
試験10%(試験)、授業内発表10%(授業時間内におこなう試験会、内容について評価する。)、提出物50%(授業内容の理解度を確認するために実施する。)平常点30%(積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。)											
履修上の注意											
この授業ではキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。USBメモリー、ヘッドフォン、変換アダプター、ノート、五線譜を持参すること。学生個人が所有するPC、スマートフォン、タブレットを用いた学習を行う際はその使用を適宜許可する。											
教科書教材											
なし。参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第 1 回	前期完成曲を学生全員で聞き、講師が個別にアドバイスする。弱点補強の講義。										
第 2 回	メロディ、コード、リフ、リズムパターン等、きっかけとなるモチーフから骨組みを作る。										
第 3 回	骨組みからフルコーラスに発展させ、アレンジを詰めていく。										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (サウンドクリエイターコース)	
専攻実技 4	
第4回	ボーカルや楽器の録音をする。
第5回	録音したものを整理し、エディット等をおこなう。
第6回	仕上げとしてブラッシュアップし、ミックスし、提出する。
第7回	完成曲を学生全員で聞き、講師が個別にアドバイスする。弱点補強の講義。
第8回	ここまで学んだことで、曖昧な点をなくすための個別指導。
第9回	メロディ、コード、リフ、リズムパターン等、きっかけとなるモチーフから骨組みを作る。
第10回	骨組みからフルコーラスに発展させ、アレンジを詰めていく。
第11回	ボーカルや楽器の録音をする。
第12回	録音したものを整理し、エディット等をおこなう。
第13回	仕上げとしてブラッシュアップし、ミックスし、提出する。
第14回	完成曲を学生全員で聞き、講師が個別にアドバイスする。弱点補強の講義。
第15回	1年間授業学んだことの総復習。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技 4 (Gt)											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	天野 丘			実務 経験	有	職種	ギタリスト				
授業概要											
ギターがメインではない楽曲（歌モノでピアノなどがメイン）にギターはどのようなアプローチをするかを研究する。リズムアクセント、音域、循環コードにおける、共通音、アルペジオの研究。											
到達目標											
歌をメインに他の楽器の上に乗っかりながら邪魔をせず、印象的なギターを弾ける引出しを多く持つことを目標とする。											
授業方法											
鍵盤メインの音源を聞き、譜面を配り、アプローチの仕方を考え、過去のバンドのアレンジと比較しながら、Aメロ、Bメロ、サビでのギターのあり方を研究する。											
成績評価方法											
平常点 6 0 %（出席率など）、実技試験 2 0 %、筆記試験 2 0 %											
履修上の注意											
板書したもの、プリント等はまとめて常に持ってくる、次回にアレンジを考える曲はアプローチの仕方をまとめて発表できるようにしておく。											
教科書教材											
配布プリント、譜面等											
回数	授業計画										
第 1 回	JPOPでの応用編マリーゴールド（あいみょん）等										
第 2 回	JPOPでの応用編TurningUp(嵐) 等										
第 3 回	JPOPでの応用編白日（kingGnu）等										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)	
専攻実技 4 (Gt)	
第 4 回	ディズニーでの応用編AWholeNewWorld, UndertheSea, 等
第 5 回	JPOPでの応用編馬と鹿 (米津玄帥) まちがいさがし等
第 6 回	JPOPでの応用編午後のパレード (スガシカオ) 等
第 7 回	JPOPでの応用編さくら (独唱) 森山直太郎等
第 8 回	実技試験
第 9 回	JPOPでの応用編howeverGLAY等
第 1 0 回	JPOPでの応用編歌舞伎町の女王 (椎名林檎) 等
第 1 1 回	JPOPでの応用編アポロ (ポルノグラフィティ) 等
第 1 2 回	JPOPでの応用編宿命 (Official髭男dism) 等
第 1 3 回	JPOPでの応用編不協和音 (欅坂 4 6) 等
第 1 4 回	JPOPでの応用編その他自作発表等
第 1 5 回	JPOPでの応用編その他自作発表等

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技 4 (Ba)											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	加茂・高橋			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
歴史上の様々な作品に触れて、フレーズだけではなくそのコンセプト（例えば同じEでもサビまで4弦の開放弦を敢えて弾か無い事等）を理解し、自身の創る作品や、関わる作品に応用して行く。その為にベースだけでなく、ギターやキーボード、歌やコーラス、ドラムやパーカッション、ストリングスやホーンなど他の楽器の役割、音楽が全体としてどう成り立っているのかに常に気を配れるベーシストになる事を目的とする。											
到達目標											
楽曲がどんなビート、グルーブで、どんなハーモニー構造を持っているのかを判断できるようになることを目標とする。ここで理想的には何か、既存曲で近いものが頭に浮かぶ事が望ましい。その中から自分独自のアイデアも含めつつ、楽曲の良さがより引き立つであろうベース・ライン、プレイを自から創り出して行かれるようなベーシストを目指す。											
授業方法											
他の楽器の専攻実技と連携する事も考慮に入れ、必ずベーシストの視点からだけで楽曲を考えず、あくまでもベースは楽曲の1要素に過ぎないと考える癖をつける。当然ベーシストの最低限の役割である、しっかりとしたパルスでグルーブを主導して行く、コード感をはっきり提示する、フィルやリーディング・ノート等で楽曲のヨコの流れも主導して行く、と言った技能もどの場面でも確実に出来るようにして行く。											
成績評価方法											
試験30%、小テスト10%、実技50%、平常点10%											
履修上の注意											
この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	参考曲：HallAndOatsの「ManEater」。楽曲をモータウン風にアレンジしたい時にすぐ対応できる。										
第2回	参考曲：SlyAndFamilyStoneの「ThankYou」。楽曲にスラップが必要な時にすぐ対応できる。										
第3回	参考曲：PaulYoungの「EverytimeLayMyHat」。楽曲にフレットレス・ベースが必要な時に対応できる。										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)	
専攻実技 4 (Ba)	
第 4 回	参考曲：StevieWonderの「MaybeYourbaby」。エフェクトなどを駆使して、シンセベース風のベースが必要な時にも対応できる。
第 5 回	参考曲：Wingsの「SillyLoveSong」。コード・トーンや経過音、導音を駆使してメロディアスなベース・ラインを弾くことができる。
第 6 回	参考曲：CreamのWhiteRoom。DTMでは表現が難しいややハネのグルーブにも対応できる。
第 7 回	参考曲：EarthWindAndFireの「September」。Funkyな楽曲にもすぐ対応できる。
第 8 回	参考曲：JoeSampleの「InMyWildestDreams」。BASSがテーマを奏でる曲にも対応できる。
第 9 回	参考曲：TheClashの「LondonCalling」。ベースで曲の看板になるようなリフを作る事が出来る。
第 1 0 回	参考曲：Queenの「UnderPressure」。高音域も活用してベースでリフやテーマ・メロディを作る事ができる。
第 1 1 回	参考曲：GerryMulliganの「PreludeinEminor」。楽曲をボサノヴァ風にしたい時にもすぐ対応できる。
第 1 2 回	参考曲：Carpnetersの「CloseToYou」。ストリングスやホーンなど、大編成の中でも埋もれないベースが弾ける。
第 1 3 回	参考曲：JimiHendrixの「ManicDepression」。あまり多くない3拍子系の楽曲にもすぐ対応してベースが弾ける。
第 1 4 回	参考曲：ThePoliceの「SynchronicityI」6拍子、できれば5拍子や7拍子の奇数拍子の上でもベースが弾ける。
第 1 5 回	全体のまとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技 4 (Dr)											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	田原歩			実務 経験	有	職種	ミュージシャン、インストラクター				
授業概要											
プロミュージシャンとしての最低限の演奏スキルを指導しながら、楽曲に対するリズムアレンジ能力やレコーディング時における注意点、セオリーを指導し、個性を活かした楽曲作りに取り組む。またヴォーカリストコース、サウンドクリエイターコースの「オリジナル作品制作」の授業と連携し、ギター、ベース、キーボードなどの他楽器の学生と協力しながらオリジナルの楽曲を完成させる。											
到達目標											
複数のラテンパーカッションの基本的な奏法、正しいフォームについて学び、習得することで演奏の幅を広げること为目标とする。ラテン系パターンを習得することにより四肢の独立を図り、また変拍子やポリリズムで拍の捉え方について学びながら、「自分の弱点や苦手分野の理解・把握」、「個々の個性を伸ばす事」を意識する。結果としてあらゆる形でのデビューでも現場での様々な要求に対応できる知識、技術を身につけることをねらいとする。											
授業方法											
各1人ずつドラムセットについて指導を受ける。あらかじめ組み立てた基本的なカリキュラムに沿って授業を実施しつつ、学生一人一人と向き合いそれぞれが抱える悩みや弱点を常に確認し、それらの改善の為に最良な方法を提示する。最終的な目標・到達点・修得したい技術なども一人一人の要望を聞き出し、その実現のために必要な技術、知識を指導する。またテクニカルで修得した技術の実用的な応用方法も合わせて指導する。											
成績評価方法											
試験20%(授業内容の理解度を確認する)、授業内発表30%(技能、及び表現力を評価する)、提出物20%(知識及び思考力・判断力を評価する)平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
無し											
回数	授業計画										
第 1 回	リニアフレーズの習得(1)/リニアフレーズについて理解し、パターン例①を習得する。										
第 2 回	リニアフレーズの習得(2)/リニアフレーズパターン例②を習得する。										
第 3 回	リニアフレーズの習得(3)/リニアフレーズを応用したフィルアプローチの考え方、使用例を習得する。										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)	
専攻実技 4 (Dr)	
第 4 回	フラム応用フレーズの習得/テクニカルで習得したフラムを応用したフィルフレーズを習得する。
第 5 回	ダブルストロークの理解/3種類のダブルストロークの奏法について理解し、正しいフォーム、グリップで習得する。
第 6 回	5 ストロークロールの理解/5 ストロークロールの応用フレーズを習得する。
第 7 回	パラディドル応用フレーズの習得(1)/シングルパラディドルを応用したパターン、フィルフレーズを習得する。
第 8 回	パラディドル応用フレーズの習得(2)/ダブルパラディドルを応用したパターン、フィルフレーズを習得する。
第 9 回	パラディドル応用フレーズの習得(3)/パラディドルディドルを応用したパターン、フィルフレーズを習得する。
第 10 回	実践的ドラムフレーズの構築(1)/8 ビートのリードシートに沿ったドラムフレーズ構築について理解する。
第 11 回	実践的ドラムフレーズの構築(2)/16 ビートのリードシートに沿ったドラムフレーズ構築について理解する。
第 12 回	実践的ドラムフレーズの構築(3)/シャッフルビートのリードシートに沿ったドラムフレーズ構築について理解する。
第 13 回	実践的ドラムフレーズの構築(4)/ハネた16 ビートのリードシートに沿ったドラムフレーズ構築について理解する。
第 14 回	実践的ドラムフレーズの構築(5)/ラテン系ビートのリードシートに沿ったドラムフレーズ構築について理解する。
第 15 回	全体のまとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
専攻実技4(Key)											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	堀越			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
学生個々の音楽の方向性を考慮しながらも、ジャズ的な要素も積極的に導入しつつ演奏技術を習得していくが、同時に音楽史に残る名曲、名演奏のエッセンス、時代によって変化するポップ・ミュージックの本質に接する中で現代的センスを吸収させ、よりクオリティの高いオリジナル作品を完成することも合わせて目的とする。											
到達目標											
Jazz即興の諸要素を理解し（授業で採り上げる曲の順序はJazzの歴史に沿ったものではなく、現代性を考えたものであることに注意）、少しずつ基礎的なJazzハーモニーおよびフレー징の定着を図る（同時に差異点を明らかにすることでRockやJ-POPなどにも対応する）。同時にオリジナル曲の作曲、オリジナルアレンジの質を高めていくことを目標とする。											
授業方法											
演奏の現場で要求されるのは、まずマスターリズム譜などの簡単な譜面を見ながら、そこに記してあるコードネームやリズムの「キメ」に沿って演奏し、そして場合によっては指定箇所でソロをとることである。2年次においては1年次において身につけた基本的なコードワークとグルーブやBluesフレーズに加え、Jazz理論に基づいた応用的なコードワークとBeBopフレーズ、モーダルなフレーズまでを習得していく。											
成績評価方法											
試験30%、小テスト10%、実技50%、平常点10%											
履修上の注意											
この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	II-V-I各パターン、各種V7ボーイングと対応スケール、「3rd+7th+テンション」などが出来る。										
第2回	課題曲『SoWhat』ソロへのアプローチ（DおよびE♭ドリアン・スケールを主体に）が出来る。										
第3回	課題曲『PassionDance』ソロへのアプローチ（4度ボーイングとペントニック）が出来る。										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)	
専攻実技4(Key)	
第4回	課題曲『HangUpYourHang-ups』基礎的アプローチが出来る。
第5回	課題曲『HangUpYourHang-ups』応用的アプローチが出来る。
第6回	課題曲『Confirmation』上で即興するための楽曲分析(コード/スケール)が出来る。
第7回	課題曲『Confirmation』ソロへのアプローチが出来る。(1)
第8回	課題曲『Confirmation』ソロへのアプローチが出来る。(2)
第9回	課題曲『Confirmation』ソロへのアプローチが出来る。(3)
第10回	課題曲『Misty』上で即興するための楽曲分析(コード/スケール)が出来る。
第11回	課題曲『Misty』ソロへのアプローチが出来る。(1)
第12回	課題曲『Misty』ソロへのアプローチが出来る。(2)
第13回	課題曲『Overtime』(Knower)ソロへのアプローチが出来る。(1)
第14回	課題曲『Overtime』(Knower)ソロへのアプローチが出来る。(2)
第15回	年間まとめ